

# 駒澤書翰



第6号

発行日：  
2023年6月18日  
発行所：  
株式会社エヌワイケー  
〒154-0012  
東京都世田谷区駒沢5-7-6  
電話：  
03-3704-8391  
FAX：  
03-3703-7121  
発行人：  
横山和俊

## 販売店よりお知らせ

### 新聞整理袋の有料化について

経済産業省のシジ袋有料化の指導により新聞整理袋は有料となります。50枚入の1セット550円にて販売しています。また読み終えた古新聞の回収処分も行っておきます。弊社までご連絡ください。

### 購読料のお支払い方法について

新型コロナウイルス感染症拡大防止並びに防犯の観点から、対面での購読料のお支払いは受付していません。現在対面にて購読料をお支払いいただいているお客様は以下の方法へ変更をお願いします。クレジットカード決済・口座振替・コンビニエンスストアでの払込。なお詳細は弊社へお問い合わせください。

## 所長のひとこと言 - 財政再建 -

お世話になります、所長の横山です。「所長のひとこと言」のコーナーでは、私が日々新聞を読む中で気になった記事を紹介していきます。新聞は一覧性に優れた媒体ですが、たまには読み飛ばしをしてしまうことがあります。「そんな記事があったんだ」など、日々の閲覧の一助になれば幸いです。

広島で開催された先月の主要7カ国首脳会議(G7)の成功を受け、内閣の支持率回復からにわかに解散風が吹き始めました。現在は岸田文雄首相の身内の不祥事で、どこ吹く風の感はありますが紙面でも「解散総選挙」の文字を見る日が多くなりました。選挙となれば何を争点とするのか。政治家まかせではなく私たち有権者もリクエストする権利はあるはずです。5月29日付日経新聞コラム核心にて「財政再建は財務省のためか・選択肢提示は政治の責任」との記事が載りました。記事では2月に刊行された「安倍晋三回顧録」から安倍元首相の財務省への不信感や、財形再建こそ財務省の「省益」との認識を示しますが、それに対し藤井彰夫論説委員長が疑問を呈します。以下、コラムを紹介します。

社会保障の維持や財政健全化には高齢者も含め幅広い世代が負担する消費税が有力手段という意見は経済の専門家には少なくない。しかし、それは国民の肌感覚とはなかなか一致していない。東京財団政策研究所が、経済学者と一般の国民に実施した意識調査では、財政再建のための消費税率引き上げについて経済学者の56%が支持したが、国民の82%は現状維持ないし引き下げ・廃止と答えた。また、日本経済新聞の4月の世論調査では、少子化対策の財源について「国債発行」という答えが35%と最多で、増税が23%、社会保険料が22%だった。こうした回答の背景には安倍氏の「国の子会社の日銀が国債を買っているの問題はない」との言説が影響を与えていると考えられる。しかし、世界ではこの感覚は通用しない。基軸通貨であるドルを要する米国ですら、中央銀行である米連邦準備理事会(FRB)が国債を買い取れば財政赤字は問題ないという話は全く出ない。さらに債務上限引き上げ問題でも、野党・共和党は激しい歳出削減を主張する。政治シヨールと言われながらも、大義名分は「財政規律」をめぐる攻防だ。翻って日本はどうだろうか。「消費税を含めた新たな税負担は考えていない」。岸田文雄首相は先月、少子化対策の財源として増税を封印した。衆院の解散が取り沙汰されるなか、増税を掲げて選挙は戦えないとの判断かもしれない。とはいえ安倍元首相は最終的には税率を12年の与野党合意の10%に引き上げた。財政のタガが大きく外れたのはコロナ禍以降だ。緊急対策としての歳出拡大は必要だったが、危機が収束に向かってもなかなか抑制できない。さらにウクライナ危機による安全保障環境の変化で防衛費などの歳出は膨張する。

今必要なことは3つだ。第1はコロナ禍の緊急対策の功罪を検証すること。どの対策に効果があり、どれが無駄だったか。しっかりと検証し将来にいかすべきだ。第2は選挙のたびに財政で国民にお金を配る悪弊から与野党ともに脱すべきだ。第3は人口減少・超高齢化時代の財政・社会保障の維持という国家的難題に超党派で解決策を探ることだ。国民に受益と負担の全体像を示したうえで議論が必要だ。歴史をみても消費税は議論着手から実施まで時間がかかる。現実から目をそむけずに議論を始めるのは政治の責任だ。今こそ政治は選択肢を示さなくてはならない。

少子化対策の財源が国債の発行ほど違和感を覚えるものはありません。仮に効果があったとしても国債返済の責務を負うのは将来の納税者です。つまり対策の対象となる現在の子供たちやこれから生まれてくる子供たちです。はたしてそれが正しい選択なのでしょうか。近く行われるかもしれない衆院解散総選挙。政治が正しい選択肢を示してくれることを私も期待します。

## 編集後記 ー所長の休日ー

六月も中旬となりいつ梅雨入りかと心配している今日この頃です。しかし、晴れの日には30度を超える日もありどちらにしても快適な日々は過ぎ去ってしまいました。そんな辛い日々を迎える前の5月中旬、私は初めての船釣りデビューをしました。魚釣りは大好きで若い頃より楽しんでいましたが、すべて港や砂浜からの釣りでした。絶対に船酔いするという確信があり、私の中で船釣りは生涯することのないものだと決めていました。しかし、行きつけのバーで知り合った飲み仲間と意気投合し、お酒の勢いもあり「今度行くときは私も連れて行ってください」とお願いしてしまいました。はたして、その彼は約束を果たすべく「〇日空いていますか?」と、本当に誘ってくれたのです。軽い気持ちでお願いしたことを後悔しても後の祭りです。過去に船酔いの経験があり、その辛さはよく知っています。さらに仕掛けをいじったり、魚を扱ったりすればますます船酔いが酷いことになるのは容易に想像ができました。しかし、私の方からお願いしておいて、「行けません」とは言えません。船酔いし酷い思いをするかもしれないけれど死ぬわけではない。ちゃんと対策を施せば船酔いはしなないかもしれない。新しいことにチャレンジする絶好のチャンスだ、と自分に言い聞かせ「大丈夫ですー!」と返信しました。備えとしては、前日しっかり寝ること、お奨めの酔い止めを用意すること。当然、前日は飲み歩くことなく早めに床につきました。そしていよいよ当日、天気にも恵まれ緊張の中出港です。沖に出るほど波は高くなり一日酔わずに楽しめるか不安を抱えながらポイントに向かいます。初めての沖釣りのため、穏やかなのかうねりがあるのか分かりません。しかし大きく揺れまです。すぐく踏ん張ったのでしょう。翌日は足がパンパンでした。しかし、前日の睡眠が良かったのか、酔い止め薬が効いたのか全く酔いませんでした。むしろ帰宅後2日間ほど、常に体が揺れているような感じが残っておりそちらの方が気持ち悪いくらいでした。肝心の釣果はと申しますと、仲間のアドバイスもあり良型のアジが20匹弱、お土産としては十分でした。刺身、フライ、南蛮漬けに塩焼きとアジ三昧で家族も大喜び。もともと友人の少ない私ですが、良き友人(飲み仲間)と出会えたことによって、新しい楽しみを知ることができました。一期一会、今回は人との出会いの大切さを知る貴重な体験でした。ただ、その仲間は私の倍以上の釣果があり、奥の深さを知ると同時に私の中の凝り性な虫がむくむくと頭を持ち上げ始めています。次はいつ誘われるかな、心待ちにしています。



今回も最後までお付き合いありがとうございました。「駒沢書簡」のバックナンバーがホームページから閲覧できるようになりました。「興味おありのお客様、ぜひチェックしてみてください。」(sns-komazawa.com)

次回第7号は2023年7月16日発行予定です